

2018年12月27日  
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で  
～東京国際コンテナターミナルおよび東京港船上見学会を実施～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体等と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、12月18日（火）に、商船三井・宇徳・東京都港湾局のご協力を得て、東京国際コンテナターミナルおよび東京港船上見学会を中野区の小学5年生約80名を対象に開催しました。なお、本見学会に先立ち、10月17日（水）に日本船長協会のご協力を得て、海運に関する授業を実施しております。

見学会当日は、まず社会科見学船「こすもす」にて海側から東京港の様子を見学し、海運・港の機能や役割について理解を深めました。

次に、東京国際コンテナターミナルでは、まず映像資料にて同ターミナルの概要やコンテナ輸送の働きのほか、東京港は首都圏の市民生活や経済活動に必要な物資を受け入れる重要な流通拠点であること等を学びました。

その後、商船三井 高島港湾ターミナル事業チームリーダーの案内の下、屋上からコンテナヤードを見学しました。見学時は、コンテナ船「MOL MODERN」が停泊しており、本船にコンテナが積み込まれる様子など荷役のダイナミックな光景を目の当たりにすることができました。

最後に行われた質疑応答では、「コンテナの大きさは決まっているのか?」「積み込むコンテナを間違えてしまうことはないのか?」等の質問があったほか、様々な種類のコンテナについて説明があり、海運や商船について親しみを持っていただく機会となりました。

当協会は引き続き会員会社等と連携し、四面環海のわが国にとって欠かすことのできない海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

